

## 令和2年度 第6回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和3年3月15日（月）19:00～20:00  
【場所】 広島市役所14階第7会議室  
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、堂面 政俊、佐藤 貴、高橋 宏明、増田 裕久、松原 啓太、南 心司

### 1 感染症に関する最近の情報

#### (1) 新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P1～38）

緊急事態宣言が発令されていた10都府県のうち、7府県は宣言解除となった一方、3月5日、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県については病床使用率が依然として高いこと等を理由に、3月21日まで延長することを決定した。

本市においては、1週間・人口10万人あたりの新規感染者数が2月6日以降、県の警戒基準値である4人を下回っている。

2月25日、退院及び就業制限に関する基準が改正され、人工呼吸器等による治療を行った場合と行わなかった場合に分けられた。

3月9日、本市で初めて新型コロナウイルス感染症（変異株）が13検体確認された。これらについて国立感染症研究所によるゲノム解析を行い、12検体は英国において報告された変異株であることが判明した。残る1検体は十分なゲノム情報が得られなかった。

本市においては、引き続き、市民に対して感染予防策等の啓発を行うとともに、広島県等と連携して感染拡大防止に向けた取り組みを推進していく。

（委員意見）

- ・変異株の検査体制の整備を進めてほしい。

#### (2) 新型コロナウイルスワクチン接種について（資料1 P39～43）

令和3年3月12日、本市は新型コロナウイルスワクチンの高齢者に対する接種について実施方針を発表した。

高齢者への優先接種のための新型コロナウイルスワクチンについては、4月5日の週に本市宛に1箱が供給される予定となっており、これについては、予約システムや会場運営、ワクチンの配送、接種履歴の管理等における課題の検証を目的として、4月16日からトライアルを実施することとしている。

また、当面の間、ワクチンの供給量が少ない期間が続くことが見込まれ、全ての対象者に均等に接種を行うことが困難であると考えられる一方で、新型コロナウイルス感染症は、高年齢ほど重症化リスクが高く、また高齢者施設や医療機関等ではクラスターが発生しやすいと言われていることから、ワクチンの供給量が少ない期間における高齢者への接種については、本市が決めた接種方針を基本としつつ、ワクチンの供給量と接種の希望者数に応じて柔軟に対応する。

引き続き、県や医師会等の関係機関と協力の上、早急に接種に向けた取り組みを進めていく。

（委員意見）

- ・市民や医療機関が混乱しないよう、制度の周知を分かりやすく行ってほしい。

#### (3) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の国内での発生状況について（資料1 P44～50）

令和3年3月8日、国は重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について、これまで西日本を中心

に報告されていたが、今般、静岡県で初めて SFTS の症例が 1 例確認されたとして、自治体に情報提供を行った。

静岡県の発表によると、当該患者は屋外での作業に従事することではなく、ダニの刺し口も確認されなかったが、職業上動物に接触することが多いことから、動物との接触を介して感染したと推測している。

本市においては、令和元年に 1 例、令和 2 年に 3 例、令和 3 年（3 月時点）に 1 例の SFTS 症例が確認されている。

引き続き、ホームページ等により、市民に対して感染予防方法等の普及啓発を行っていく。

（委員意見）

意見なし。

## 2 2 月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料 2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

## 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和 3 年 2 月分	令和 3 年 3 月分
		報告日 2/1～2/28	報告日 3/1～3/9 現在
2 類	結核	8 人 (結核 6 人、潜在性結核 2 人)	
4 類	重症熱性血小板減少症候群		1 人 (3/5)
	E 型肝炎	1 人 (2/9)	
	レジオネラ症	2 人 (2/5、2/5)	1 人 (3/7)
5 類	アメーバ赤痢	2 人 (2/3、2/4)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人 (2/16)	
	後天性免疫不全症候群	2 人 (2/1、2/4)	
	急性脳炎		1 人 (3/3)
	梅毒	5 人 (2/2 (2 人)、2/8、2/22、2/24)	2 人 (3/1、3/4)
新型インフル等	新型コロナウイルス感染症	86 人	17 人

( ) は届出日

## 4 その他《公開》

次回開催予定日 令和 3 年 4 月 19 日（月） 14 階第 7 会議室

### 【資料】

資料 1：最近の感染症情報

資料 2：2 月の感染症の概要

資料 3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

# 広島市感染症対策協議会コメント（3月分）

令和3年3月15日

## 1 患者情報

### (1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、2月は537人で、前月比1.36とやや増加した。  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は増加、感染性胃腸炎はやや増加、突発性発しんはほぼ横ばい、ヘルパンギーナは大きく減少した。

### (2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症は、2月6日以降、広島県の警戒基準値（4人/1週間・人口10万人当たり新規感染者数）を下回る状態が続いている。広島県及び広島市における各種指標も警戒基準を下回り、2月21日をもって広島県が実施する「集中対策」は終了した。一方、全国の新規感染者数は、1月中旬以降減少が続くものの、2月中旬以降減少スピードが鈍化しており、下げ止まる可能性やリバウンドが警戒されている。また、変異株の報告が全国で相次いでおり、広島市でも変異株PCR検査で陽性を確認し、国立感染症研究所においてゲノム解析を行った結果、3月9日に7件、12日に5件が英国において報告された変異株であると確定した。現在、主な変異株は、報告された国を基に英国、南アフリカ、ブラジルの3系統があり、感染伝播力の上昇やワクチン効果を減弱させる免疫逃避の可能性が指摘されている。対策としては、国内流入を極力抑制し、変異株感染者を早期に探知、封じ込めを行うとともに、基本的な感染防止対策を徹底することが大切である。

国内の新型コロナウイルス感染症（変異株）の状況

国内事例	変異株			都道府県別 患者数		都道府県別 患者数		都道府県別 患者数		都道府県別 患者数	
	英国で報告された変異株	南アフリカで報告された変異株	ブラジルで報告された変異株	都道府県別	患者数	都道府県別	患者数	都道府県別	患者数	都道府県別	患者数
271	260	8	3	北海道	0	東京都	14	滋賀県	2	香川県	0
				青森県	0	神奈川県	22	京都府	19	愛媛県	0
				岩手県	0	新潟県	32	大阪府	62	高知県	0
				宮城県	0	富山県	0	兵庫県	38	福岡県	0
				秋田県	0	石川県	1	奈良県	0	佐賀県	0
				山形県	0	福井県	0	和歌山県	0	長崎県	0
				福島県	5	山梨県	2	鳥取県	0	熊本県	0
				茨城県	1	長野県	1	島根県	0	大分県	0
				栃木県	1	岐阜県	4	岡山県	3	宮崎県	0
				群馬県	3	静岡県	7	広島県	7	鹿児島県	5
				埼玉県	41	愛知県	0	山口県	0	沖縄県	0
				千葉県	1	三重県	0	徳島県	0	計	271
計	345										

南アフリカ：神奈川県4件、岐阜県4件  
ブラジル：埼玉県1件、山梨県2件

データ：厚生労働省ホームページより（HER-SYS：3月9日時点）

- 感染性胃腸炎は、1月以降増加傾向が続いており、第9週は定点当たり5.71人（例年同時期は7.29人）の報告があった。また、本市において、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が2月に2件報告されており、福祉施設、学校、保育園などの集団生活の場では、流水・石けんによる手洗いを励行し、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒等、感染の予防及び拡大防止対策を徹底することが大切である。

### (3) 2月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
  - 2類感染症：結核 8件（患者：6件、潜在性結核：2件）
  - 3類感染症：なし
  - 4類感染症：E型肝炎 1件  
レジオネラ症 2件
  - 5類感染症：アメーバ赤痢 2件  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件  
後天性免疫不全症候群 2件  
梅毒 5件
- 新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 86件

### (4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎の発生動向に注意が必要である。

## 2 検査情報

2月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
感染性胃腸炎	カンピロバクター・ジェジュニ	11月	1人
	アデノウイルス5型	12月	1人
手足口病	コクサッキーウイルスA16型	11月	1人
突発性発しん インフルエンザ	*1 ヒトヘルペスウイルス6型	11月	1人
	*1 ヒトヘルペスウイルス7型		
流行性角結膜炎	アデノウイルス37型	11月	2人
	アデノウイルス37型	12月	1人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	ライノウイルス	10月	1人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス5型	12月	1人
その他の循環器疾患	コクサッキーウイルスA4型	11月	1人
その他の疾患（川崎病）	アデノウイルス6型	11月	1人
	ライノウイルス	12月	1人
その他の疾患（不明熱）	*2 エコーウイルス18型	9月	1人
	*2 ライノウイルス		
	コクサッキーウイルスA16型	11月	1人

\*1～2：複数病原体検出例

14人の患者から9種類のウイルス15株、1種類の細菌1株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス37型、ライノウイルス各3株、アデノウイルス5型、コクサッキーウイルスA16型各2株、アデノウイルス6型、エコーウイルス18型、コクサッキーウイルスA4型、ヒトヘルペスウイルス6型、同7型各1株であった。検出細菌の内訳は、カンピロバクター・ジェジュニ1株であった。

5類感染症定点情報  
(令和3年2月解析分)

1. 週報対象(第5週～第8週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		4	0.11		10	流行性耳下腺炎		1	0.04	
2	咽頭結膜熱		14	0.59		11	RSウイルス感染症		-	-	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		61	2.55		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		378	15.76		13	流行性角結膜炎		6	0.75	
5	水痘		9	0.37		14	細菌性髄膜炎		1	0.14	
6	手足口病		8	0.33		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		-	-		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん		29	1.21		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		9	0.37		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(2月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		51	5.67
2	性器ヘルペスウイルス感染症		10	1.11
3	尖圭コンジローマ		7	0.78
4	淋菌感染症		19	2.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		17	2.43
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和3年2月分)

第5週～第8週(2月1日～2月28日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ベスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	8	16	1,198	2,112	
	10 シフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	-	
	16 細菌性赤痢	-	-	1	2	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	1	50	124	
	18 腸チフス	-	-	-	-	
	19 パラチフス	-	-	-	-	
四類	20 E型肝炎	1	1	45	98	
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	-	10	14	
	23 エキノコックス症	-	-	-	2	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	-	1	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	2	2	
	28 キャサスル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	-	
	30 狂犬病	-	-	-	-	
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	5	5	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 チクングニア熱	-	-	-	-	
	40 つつが虫病	-	-	10	57	
	41 デング熱	-	-	-	-	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	-	-	1	2	
	46 日本脳炎	-	-	-	-	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	-	-	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 癩しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	-	-	
	55 マラリア	-	-	-	3	
	56 野兔病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	2	4	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	-	
	61 レジオネラ症	2	4	112	185	
	62 レプトスピラ症	-	-	1	1	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	2	3	50	89
		65 ウイルス性肝炎	-	1	13	20
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	1	144	242
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2	4
		68 急性脳炎	-	-	29	51
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	1
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	9	22
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	65	117
		72 後天性免疫不全症候群	2	2	71	130
		73 ジアルジア症	-	-	3	7
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	20	39
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	-
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	86	166
		77 水痘(入院例に限る。)	-	-	16	31
		78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
	79 梅毒	5	5	446	810	
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	13	21	
	81 破傷風	-	-	4	11	
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	10		
84 百日咳	-	-	49	89		
85 風しん	-	-	3	5		
86 麻しん	-	-	-	-		
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-		
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	86	3,270	43,175	430,533	

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。